

相手の立場を考え主体的に関わる児童の育成

— 出会いつながる、計画的・段階的な幼保小の連携を通して —

特別研修員 幼小連携 森美樹（小学校教諭）

児童の実態

- ・ 友達が困っていても気付かなかったり、何もできなかつたりする。
- ・ 周囲の人と協力しながら、自分で考えて問題解決しようとする力が弱い。

小学校の願い

- ・ 新入学児童の様子を知り、受け入れ態勢を整えたい。
- ・ 学校全体で幼保小連携の体制を作りたい。

園の願い

- ・ 安心して入学できるように、学校の様子を知らせたい。
- ・ 学校生活に役立てるように、園での様子を伝えたい。

3年生の「総合的な学習の時間」に幼保小連携を位置づける

手立て1

相手意識、目的意識、解決する意欲を持つための工夫

手立て2

相手の立場を想像するための工夫

手立て3

主体的、協同的に課題に取り組むための工夫

学習課題の設定

「年長さんのためにできることを考えよう」

① 保育園の先生からの手紙

3年生にお願いします。
年長さんに学校のことを教えてください。
保育園の先生より

「年長さんは不安なんだな」
「年長さんに教えてあげたい」

② 自分が年長児の頃を想起



「登校が不安だったな」
「園から一人で心配だったな」

③ グループごとにKJ法で意見交流

「みんなの意見が集まるとすごい」
「年長さんに安心してほしいな」



「年長さんかわいかったな」
「次はもっと、自分から声をかけよう」

早く教えてあげたいな。
どうしたら喜んでくれるか考えよう！

交流 「保育園へ行こう」「学校へ招待しよう」

交流 「年長さんを安心させるために、学校を紹介しよう」

① めあて振り返りシート作成

「3年生らしく優しく教えよう」
「自分から笑顔で声をかけよう」

「喜んでくれてよかった」
「安心して入学できてね」

② 事前練習やりハーサルでグループ交流の時間を確保

「手遊びで安心させよう」
「笑顔で優しく話そう」



「分かっているか確かめながら話すといいな」

「年長さんの顔を見ながら笑顔で話そう」

③ 分かりやすいルールのゲーム設定

「優しくしっぽを付けてあげよう」



「年長さんが転ばないように、気を付けて走ろう」

一人一人がめあてと成果を自覚できた。

相手がどうしたら喜んでくれるか想像し、自信を持って行動できた。

一緒に楽しく遊べた。チームで協力できた。年長さんのお世話ができた。

次年度の連携への意欲の高まり

出会うための準備

保育園との計画的・段階的な連携

交流活動の設定

成果と課題

- 総合的な学習の時間に幼保小連携を位置付けたことで、課題解決をする時間が十分確保できた。
- 児童は年長児の様子を想像しながら目的意識を持って準備を行い、交流場面では、年長児の表情を確かめながら、主体的に関わることができた。
- 園と打合せを行い、段階的に交流をしたことで、互いの様子や教育に対する理解が深まり、次年度への連携の意欲が高まった。
- 保育園や学年と相談し、無理のない時数で学習できるよう、年間指導計画を改善していきたい。
- 今後は、他の保育園・幼稚園とも交流可能になるように、様々な連携スタイルを柔軟に考えていきたい。